

水彩画教室 「富士笠雲」

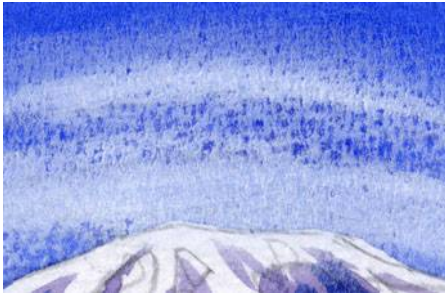
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

日本には火山が多いので 山頂が孤立した独立峰がたくさんあります そういう山にはよく「笠雲」(傘雲とも書きます)がかかかります 気流と山の地形が削り出す「レンズ雲」の一種です 笠雲をよく観察すると 風上側で雲が発生し 風下側で消えているのがわかります それを繰り返すので 見た目には静止した一塊の雲に見えるのです 実は山頂付近には強風が吹いていることが多いです 富士山の場合さまざまな形状の笠雲が現れ 「笠雲の博物館」とまで言われます 形状によって天気の変化がちがうのだそうです この絵のような二重笠はすばらしい眺めです



これが完成した絵です



1、山頂の笠雲は白のパステルであとから描きました



2、パステルを指で擦りこんで 周縁部をぼかします



3、山腹の残雪は塗り残します



4、遠くの疎林は点描風に描きます



5、強風で曲げられた樹木 少しパステルを使っています



6、溶岩の立体感は もう少し工夫が必要でした